



会報 防災だより

2012
VOL.8
3月31日発行

CONTENTS

1. ご挨拶 会長 大黒裕明 2P
2. 視察研修に参加して 2・3P
3. 災害時要援護者支援事業 4P
4. 八戸地域防災協会研修会 4P
5. 防災士養成講座を受講して 5P
6. 高校生主体の消防クラブが結成されました 6P
7. 新庁舎紹介 6P
8. 各ブロック研修会 7P
9. ガソリン携行缶安全・安心5つのポイント 7P
10. 趣味をもとう 堀切川一百合 8P
11. 会員事業所紹介コーナー 万作はせがわ 8P

題字揮毫 大黒会長



ご挨拶

八戸地域防災協会

会長 大黒裕明

日頃は当協会の活動にご理解とご協力を頂きありがとうございます。防災だより第8号をお届けします。

昨年は東日本大震災後も大きな地震が相次ぎさらに台風による浸水被害、年が明けると数年ぶりの寒波と豪雪に見舞われるなど、自然の猛威が続いて心休まることも少なかったのではないかと存じます。皆様方それぞれに事業所あるいは地域の防災に平素からご努力いただいていたお陰で、ダメージが最小限でとどまったのは不幸中の幸いでした。

さて、昨年は当協会の視察で函館を訪れ、現地の防災担当の方々との意見交換をし、大変貴重な経験をする事ができました。中でも、函館も津波による被災があったことを初めて知ったのは衝撃でした。福島、宮城、岩手、青森が大きく被害を受けたことは承知していましたが、復旧が進むにつれ青森が外されいつの間にか「被災

外国人客が多く、理解不能の言葉が飛び交っていました。

寒さの厳しい中を展望台に立つて見下ろすと、左右の海岸線がまっすぐ伸びて遠くで広がり、たくさんの光にあふれた街の風景が金粉を散りばめたカクテルグラスのようです。省エネ、節電ではなかったのかと捻くれた感想も湧きました。見ているうちに、「やはりこの元気が良い」と評価を変えようになりました。八戸も函館に負けない元気を早く取り戻したいものです。

最近、いくつか面白い話題が聞けるようになってきました。行政に復興の新しい方向が見え始めたこと、民間に中心市街地の空きビルを取得して再開発の動きがあることなどです。これらが実を結んだ時のことを想像すると楽しくなってきました。

最後に、新しい八戸消防本部、消防署が竣工し業務を開始しました。支援車も配備され市民病院やドクターヘリのポートにも近く、これからの八戸とその周辺部だけでなく近隣県まで含めた防災と救命の総合基地となりそうです。「地域の安全と安心」と言う住民の悲願の達成が、また一歩前進したようです。



八戸地域防災協会 視察研修会に参加して

八戸液化ガス株式会社 磯島 国彦

「国境の長いトンネルを抜ける」と雪国であった・・・川端康成の小説「雪国」の冒頭の二節が、私の中にふつとよぎる光景が目の前にとびこんできました。

それは、昨年の11月15日（火）八戸地域防災協会視察研修会に参加し、函館に向かう電車が青函トンネルを抜けた瞬間でした。二日間の行程で函館市消防本部他の研修にあたり、天候を心配しながらも「いつ、何が起こるか分からないのが災害なのだから、このくらいは想定内か」などと、訳のわからない理由をつけて自分を納得させ、予定表を眺めたり同行した方々とあれこれ話しているうちに函館に到着しました。送迎バスのガイドさんから聞いたところ初雪だとの事でした。

昼食後、最初の目的地「函館市消防本部」に到着し、消防長、防災協会会長からご挨拶をいただき、ご担当の方からはユーモアを交えた有意義な講話をしていただきました。

その中で一番印象に残ったのは、

昭和9年3月21日に発生した「函館大火」の規模の大きさでした。

瞬間最大風速39m/sの風により、建物の屋根が飛び、炉火の粉が飛んだ事が原因のようですが、焼失面積約46万㎡、焼失世帯約2万3千世帯、罹災人口約10万2千人、亡くなられた方も2千人を超えたという説明を聞き、昔人づてに聞いた函館大火の規模の大きさに、改めて驚愕させられました。焼失面積46万㎡という、よく比較される東京ドーム（全敷地面積約4.6万㎡）の約90個分の面積が焼失した事になります。

私の記憶の中には、今でも昭和36年の八戸市白銀町大火が鮮明に残っています。親戚が被災した事もあり祖父と共に鎮火数日後火事見舞いをした帰り道、高台から眺めた火災後の光景の凄まじさは、当時幼かった私には、その後何度も夢に出てくるほど強烈なものでした。白銀町大火の焼失面積は約30万㎡という事ですから、函館大火がいかにもの凄かったかは、想像を絶するに余りあります。



現在の消火体制や建物を当時と比較して考えますと、そこまでの被害にならないとは思いますが、様々な悪条件が重なれば広範囲に及ぶ事もあり、やはり火災は怖いものです。

火災の悲惨さが私の記憶に残っている事もあり、我が家では火災に対してとても気を付けており、八戸市では平成20年6月1日より義務化された「住宅用火災警報器」を、いち早く8個設置しております。

つい余計な事まで書いてしまいましたが、函館・八戸管内とも「住宅用火災警報器」の普及が思うよう

うに進んでいないという事で、消防署員の方々も大変御苦労されているようです。また、これは全国的な傾向だということですが、タクシー代わりに救急車を呼ぶ方も増えていて、本当に救急車を必要としているケースに支障をきたす事を懸念しているとお話され

ておりました。そういう方のモラル向上を期待したいものです。他、非常に楽しいお話しをたくさん聞かせていただきましたが、これ以上書くと大変な事になりそうなので、自分の胸にそっとしまっておく事にします。

さて、函館市消防本部を後にし、

その夜は20年ぶりの函館山からの夜景観覧、懇親会、そして翌日は、五稜郭タワー、函館奉行所他を観光させていただきましたが、各観光場所に着く度に緊急時の避難経路の確認、消火設備の確認をして

いる自分にふと気づき、もしかして「不審者」と思われてはいないかと、思わず周囲を見まわしてしまいました。しかしながら、自分の行為は大切な事だと、改めて今自分の中で納得しています。

今回、初めて「八戸地域防災協会視察研修会」に参加させていただきましたが、参加者の中に個人的な知合いが何名かいた事もあり、

たについて考えて実行する必要があると思います。

私はボイスアウト活動に参加していますが、その基本に「そなえよつねに」の考え方があります。防災への取り組みは、「そなえよつねに」の精神そのものだと改めて確信しました。

又、各業種の方々との懇談で知見を広めることが出来ました。今回の研修に参加出来て本当に良かったと思っております。研修を企画実行していただいた事務局の皆様には心から感謝致します。

とても楽しく、そして八戸地域防災協会加入事業所の一従業員として協力できる事やその範囲など、様々な考えさせられ私にとつてとても有意義な視察研修会でした。

末筆となりましたが、函館市消防本部の皆様には、お忙しい中時間をさいてお世話いただき、また心に残るご講話をいただき厚くお礼申し上げます。そして研修会を企画し、また同行しお世話いただいた八戸消防本部の皆様には心より感謝申し上げます。



函館市消防本部 視察研修会に参加して

(株)アストモスガスセンター 八戸 鶴丸 哲郎

今回の視察研修会は、日程が2日ということで業務への影響が少ないことから参加を決意し、初雪となった函館駅に24年ぶりに降り立ちました。

函館市は、人口が約28万人と八戸と同規模の都市で雰囲気も良く似ているなど感じました。

函館市は、昭和9年3月21日に「函館大火」が発生して46万㎡を焼失し、焼失家屋が1万棟を超え

ました。

この大火から復興するにあたって、防災をコンセプトとした街づくりを先行し、高台から海岸まで伸びる広い道路による街の区画整理や学校の校舎を口の字にして校庭を校舎で囲んで炎から児童・生徒を守る工夫がなされたそうです。(その時に活躍した「アーレンスフォックス」という消防車が消防本部の玄関に展示されています。)

した。)

八戸市も昭和36年5月29日に「白銀町大火」が発生して30万㎡を焼失し、700棟が焼失しました。

復興するにあたって「燃えない街づくりを推進する」をコンセプトに国・県・市が協力して都市計画道路・計画街路・緑地帯・病院・学校・住宅団地等を整備して今日に至っているのは皆様ご存じの通りだと思えます。

過去の災害を教訓として将来の災害に備えることの大切さを再認識させていただきました。

東日本大震災を経験した我々全員がそれぞれ今後の防災のありか



平成23年度 災害時 要援護者 支援事業

昨年11月7日(月)から9日(水)までの3日間、八戸消防本部と合同で高齢者世帯、身体障がい者世帯などに住宅用火災警報器の寄贈設置を実施しました。

今年度は、八戸市・階上町・おいらせ町の92世帯に対し、住宅用火災警報器10個の寄贈設置と火気使用機器・水廻りの点検整備と併

せて、たこ足配線や火気取扱いなどの注意を呼びかけました。

この活動は、旧消防設備協会が昭和53年から電気・水道の点検整備と防災機器の寄贈設置、旧防火管理者

協会が平成9年から自動消火装置などの寄贈設置をそれぞれ実施してきました。

協会合併後も社会福祉事業の一環として引続き実施しているもので、住宅火災から高齢者などの災害時要援護者の犠牲を減らし、安



全で暮らしやすい日常生活の維持に寄与するとともに、災害のない明るい街づくりの推進を目的としています。

来年度以降も、計画的に実施する予定となっておりますので、会員皆様のご協力をお願いします。

八戸地域 防災協会 研修会

青山徹郎氏
による講演会

昨年10月7日(金)八戸パークホテルにおいて、八戸市出身で、東京消防庁を平成19年3月に退職され、(株)ニューオータニの安全管理室防災課長を務めておられる青山徹郎氏を講師に招いて「官から

民へ 危機管理で思うこと」と題して防災講演会を開催し、会員・関係者107名が受講しました。講演会は、東京消防庁在職時のご自身の秘話や東日本大震災でのホテルニューオータニの宿泊者に対する適切な対応など、防災に関する斬新なご意見を巧みな話術で披露して頂き、受講した会員・関係者は、それぞれの事業所での安全に対する危機管理を再認識していました。



昨年12月2日(金)八戸グランドホテルにおいて、社会福祉法人 恵泉会 中居林保育園 園長で、当協会副会長の柁沢幸苗氏を講師に招いて「震災に学ぶ保育園の防災・避難への対応」(日々の保育の中にも自助の精神を育てる)と題して防災講演会を開催し、会員・関係者118名が受講しました。講演会は、日常の防災への取組みから、東日本大震災で被災した地域の保育園では一人の犠牲者も出さずに避難出来たことや、中居林保育園での自身の体験を交え、「自助」の大切さについて披露して頂き、受講者は、巧みで迫力ある語り口に聞き入っていました。講演会後は、柁沢氏を囲みながらの懇親会を開催し、昨年中の憂さを晴らし、活発な産業の復興を成し遂げることを祈念して、街の活性化の一翼を担っておられる「王将太鼓」の皆様と和太鼓の演奏を披露して頂きました。

八戸地域 防災協会 研修会

柁沢幸苗氏
による講演会



「王将太鼓」については8ページの「趣味をもとう」のコーナーにも詳しく記載されていますので、ご覧ください。



防災士養成講座を

受講して

八戸製錬株式会社 見附 幸夫

東日本大震災では当社も設備に大きな被害を受けましたが、幸い

の到達が早ければ到底間に合いませんでした。

我が社では毎年の防災訓練で津波を想定した避難訓練を実施しており、今回の震災時にも全社員が高

実際に災害に直面したときに冷静な判断が出来ず、想定外の状況に対応した危機管理の難しさを痛感いたしました。

に浮かび、自分にとって有意義な研修となることから受講することにしたしました。

ののではないかと感じました。研修では先ず「防災士とは何か」から始まり、自然災害と震災などの惨事や教訓について検証・演習を交えた講義は、緊張感と説得力のある有意義な研修内容でした。

また、いつ起こるかわからない災害を最小限に食い止めるためには「減災対策」と「地域の防災力」を推進して日頃から万が一の災害に備えておく必要があると強く感じました。

今回の研修で身に付けた知識を地域の防災力の向上と職場の防災意識向上に役立てていきたいと思っています。



防災士養成講座を

受講して

八戸市立是川公民館 田端 美奈子

平成23年3月11日、マグニチュード9.0、震度7の巨大地震、東日本大震災が発生しまし

消防官でもある細越館長から、防災士の資格を取得できる研修があると勧められ、震災を機に正しい防災知識を身につけたいと思い、「防災士養成講座」を受講させて

私には、震災2カ月後の5月から、避難所でもある是川公民館で勤務することにしました。今まで、防災について何の知識もなく、人事のように感じていましたが、元

消防官でもある細越館長から、防災士の資格を取得できる研修があると勧められ、震災を機に正しい防災知識を身につけたいと思い、「防災士養成講座」を受講させて

ら、地震・津波はもろろんのこと、気象災害や土砂災害について、一日4時間の講義とグループセッションを行いました。

無事、防災士として認定され、その役割を再確認しました。災害時、自衛隊・警察・消防の公的救助だけに任せるのではなく、自分の身は自分で守る（自助）を前提として、自分の安全が確保できたなら近隣住民同士助け合い救助活動する（共助）や公的救助が到着したら救助隊の方々と協力し合っ

減
・災害発生後の被災者支援の活動
・平常時の防災意識の啓発、自助・共助活動の訓練
・災害時の、公的支援が到着するまでの被害の拡大の軽減
・災害発生後の被災者支援の活動
・平常時の防災意識の啓発、自助・共助活動の訓練

高校生主体の消防クラブが 結成されました

平成24年2月17日（金）八戸市の光星学院高校が消防クラブを結成しました。

少年消防クラブは、10歳から15歳の少年少女が対象とされてきましたが、幅広く青少年の防火・防災意識を高め、防災ひとつくりを推進する観点から、高校生など16歳から18歳までの青少年を対象を広げることに取り組んでいます。光星学院高等学校消防クラブは、1、2年生74名で構成され、



青森県内では五戸高校、十和田西高校に次いで3校目、八戸市内では初の高校生主体の消防クラブとなりました。

同日、同校で開かれた結成式で、当協会からの記念品として、シンボルマーク入りのアポロキヤップを大黒会長から生徒の代表3人に寄贈しました。

クラブは今後、火災予防や防災についての学習の他、消火訓練や救命講習の実技体験、防災マップの作成などを行います。消防防災を通じて地域と関わりを持つことで、青少年期の人間形成や地域社会への参加意識の醸成にも有効であると期待されています。

新庁舎紹介

八戸消防本部・八戸消防署は、旧庁舎からの移転を終え、新庁舎で業務を開始しています。このコーナーでは、皆さんに新庁舎を紹介します。

庁舎概要
 構造 鉄筋コンクリート造
 階数 地上5階 地下無し
 面積 5,600㎡
 (庁舎棟)

特徴
 ・大規模災害発生時における地域災害対策活動の総合防災拠点となる建築物です。
 ・阪神大震災クラスの地震に対しても建物機能を維持できるように、基礎免震構造を採用しています。

・ライフラインが途絶えた場合、復旧が見込まれるまでの相当期間に必要な電力を確保するため、非常用発電機を設置しています。
 ・非常用トイレとして、非常時は仮設トイレとなる便槽を本部車庫棟の床下に設置しています。

・冠水対策として、建物1階床高さは新井田側の堤防高さより高い設定としています。
 ・外観デザインは「南部裂織」をデザインモチーフとして、地域アイデンティティを表現

したものになっています。
 八戸消防署です。
 車庫には八戸鉄工所が1948年に製作した国で初めて3,000ℓの水を積載させた消防車を展示しています。



1階
 消防隊の仮眠室と防災備蓄倉庫です。

2階
 防災備蓄倉庫には、1000人(2000人分の)飲料水や毛布等が備蓄されます。

3階
 消防本部です。
 5つの課のうち、管理課・予防課・警備課・救急指導課がこのフロアに勤務しています。

4階
 119番通報を受け付ける指令情報課と災害対策室です。
 平成24年3月8日からは新指令台システムが稼働していま



5階
 消防防災展示コーナーです。テレビ画面に向かって消火体験ができる消火体験コーナーや、パソコンを使った防災クイズなど、消防防災を楽しく学べるフロアになっています。また、明治・大正時代に活躍した腕用ポンプや、八戸広域管内で発生した災害のパネル展示もしています。

・通報の発信地がすぐに特定できる
 ・現場に最も近い車両に出勤の指示ができる
 ・自動車両に対して災害現場までのナビゲーションが可能などの特徴があり、今まで以上に迅速な災害対応が期待できます。

各ブロック研修会

八戸消防署管内

・防災活動交流会（56名参加）
平成23年9月16日（金）
場所 八戸市福祉体育館

八戸東消防署管内

・視察研修会（25名参加）
平成23年9月22日（木）
場所 是川縄文館

八戸消防署・東消防署合同

・普通救命講習会（130名参加）
平成24年2月22日（水）
場所 八戸パークホテル

三戸消防署管内

・普通救命講習会（41名参加）
平成23年7月22日（金）
場所 三戸中央公民館

視察研修会（13名参加）

平成23年10月4日（火）
場所 デーリー東北新聞社
是川縄文館

五戸消防署管内

・普通救命講習会（24名参加）
平成23年12月7日（水）
場所 五戸町立公民館

視察研修会（38名参加）

平成24年2月3日（金）
場所 八戸ポーター
ミュージアムはっち

是川縄文館

八戸消防本部新庁舎
おいらせ消防署管内

視察研修会（8名参加）

平成23年7月27日（水）
場所 JR七戸十和田駅
ねぶたの家ワ・ラッセ
青森県立中央病院

普通救命講習会（26名参加）

平成24年2月17日（金）
場所 おいらせ消防署

視察研修会

平成24年3月9日（金）
場所 八戸消防本部新庁舎

報 告



旧防火管理者協会 会長の神山公佑様（享年七十七歳）が、平成23年9月30日に逝去されました。謹んで会員各位にご報告いた

します。
葬儀は10月12日午前10時から八戸プラザホテルアーバンホールに於いて、ホテル関係者、各種団体代表の参列者の下、しめやかに執り行われました。
当協会からは、大黒会長の他、多くの役員・会員が出席され、在りし日の神山会長を思い、遺影に永遠のお別れをしていました。ご冥福をお祈りいたします。



ガソリン携行缶を安全・安心に使う5つのポイント



① 危険性について

ガソリンは気温が-40°Cでも気化し小さな火源でも引火し爆発的に燃焼する物質です
軽油は+40°Cで気化します



② 容器について

灯油用ポリエチレンかんにガソリンを入れることは非常に危険です
ガソリンを入れる容器は消防法令により一定の強度のある材質を使用することと容量が制限されています



③ 購入について

セルフスタンドでは利用者が自らガソリンを容器に入れることはできません
消防法令の基準に適合した容器でガソリンスタンドにて購入してください



④ 保管について

ガソリンを容器に入れて保管することは極力控えてください
ガソリンは、揮発性が極めて高く火災が発生すると爆発的に広がるので保管時には注意してください



⑤ 取扱いについて

使用時には取扱説明書をよく読み適正な取扱いをしてください
パッキンの劣化、キャップの締め方の不備等注入口からの漏れによる危険物の漏えい事故の報告があります

■お問合せ先■

八戸消防本部予防課保安調査班
TEL 0178-44-2133
FAX 0178-44-1196

趣味をもと

王将太鼓

カメイ(株) 八戸油槽所
 所長代理
 堀切川 一百合

太鼓を始めたのはもう20年以上も前になる。もともとバンドマンだった私はドラムを担当し、ライブ活動やダンスパーティーなどに参加し、演奏していた。そんな時、百石町（現おいらせ町）の町おこし事業の一環として、和太鼓チームの結成時、声をかけていただいた。それが「王将太鼓」との出会いであった。

「王将太鼓」は、将棋の町百石に平成3年3月に結成、将棋で知られる十五世名人大山康晴先生の揮まうによって命名され、全国将棋祭り、百石秋祭り、和太鼓フェスティバル等、町内のイベントをはじめ、近隣市町村の催し等お声がかかればどこへでも足を運んでいる。

毎年、おいらせ町和太鼓フェスティバルを開催するに当たり、準備、運営、プロ奏者の出演依頼等に携わっているが、イベントとおして大変ながらも様々な人と関わるなかで学ぶことも多いと感じている。毎年何百人という方が来場下さいますことにも感謝している。



私が初めて和太鼓に感銘を受けたのは、八戸陸上自衛隊の陣太鼓の演奏だったように記憶している。胸の奥にズシンと響く音に鳥肌が立つほど感動した。和太鼓には、宮太鼓、桶胴太鼓、締め太鼓、平太鼓等、大小様々な太鼓の他、手平鉦、チャンチキ、篠笛等があり、それぞれの音色の組み合わせによって力強さや優しさ、華やかさが表現される。そして時には、もの悲しさやわくわくする楽しさなど見聞きする人によってさまざまな感じ方があると思う。

現在王将太鼓は、10名ほどのメンバーで活動している。週1回それぞれ違う仕事を待つ仲間が集まって練習に汗流している。本番当日、演奏時間が近づくにつれ緊張が高まり、身が引き締まる。そして演奏の度にたくさん拍手や声援をいただき、充実感とともにこれからも続けていこうという力となっている。

私にとって趣味とは、心の糧、心の栄養だと考える。

会員事業所紹介コーナー⑥



心に残るおもてなし 万作はせがわ

住所：八戸市城下4丁目7-6
 TEL：(0178) 61-0606

営業時間 *月～金／11：30～14：00
 17：30～20：00
 *土・日・祝日／
 11：30～20：00
 *定休日／毎週水曜日
 (祝日は休まず営業いたします)
 ☆45台収容駐車場完備
 ☆28名送迎バス

ご予約お問い合わせは
 ☎0120-46-0803 FAX0178-46-0903

平成8年4月10日、大小宴会場・お食事処として「万作はせがわ」がオープン致しました。

冬の厳しさに耐え、春一番に咲く花「まんさく」その花びらは、四方八方に広がりその豊かな花つきの様子が豊年満作に通じるとして古くから愛されてきた万作の花。

私ども「万作はせがわ」の名も皆様に末永くご愛顧賜われますようにという想いを込めて名付けました。有限会社はせがわ仕出し店で親しまれてきた伝統の味づくりにおもてなしの心を込めて皆様にご満足いただけるお席をご用意致します。

店内一階には、「お食事処」と「大広間」があります。「お食事処」では、お一人様から何名様でもご予約無しでお食事ができます。お部屋は、お子様連れのご家族や友人とご一緒に、また出張中の方にも気軽にお立ち寄り頂けるお座敷とお座敷用椅子をご用意しております。

通常メニューに加え、平日（月～金：14時まで）は、「ランチ800円（10食限定）」また、毎月お得な月替わり「和食」、お箸で食べる「フレンチコース」などお楽しみ頂けます。一階ステージ（カラオケ）付き「大広間」は、椅子席約70名様、お座敷で100余名のお客様にご利用頂けます。

二階には、44畳・32畳・26畳の3和室があり、いずれもご希望に応じてお座敷、椅子席をお選びできます。お誕生日、金婚式、結納（式進行あり）等のお祝いやクラス会、忘新年会のお集まり、ご法事（回忌法要・ご葬儀後の会食）など皆様様がゆったり落ち着いて会食できるお席をご用意致します。又、お祝い用花束、仏花、盛り花等もご注文承っております。

万作はせがわでは、新鮮な海の幸、旬の味を活かして八戸名物生うにを使った年一度開催の恒例「万作うに丼まつり」も好評頂いております。

「美味しい出会いの店・お得な気分を味わって頂ける店」を motto に心に残るおもてなしを心掛け努力して参ります。

今後ともご愛顧賜わりお越しをお待ち申し上げております。